

都市型市民農園で創る健康ふるさとづくり (平成19年度認定)



那覇市や浦添市などの都市と隣接する西原町は、近年、大型の商業施設や大規模な海浜の埋め立てなどが実施され、都市化が進行している。町の主要な農産物はサトウキビであったが、農地の宅地化に伴い耕作面積が減少している。

沖縄県農業協同組合西原支店では、栽培を通じた農業の理解推進および遊休農地解消のモデルとするために、平成7年度に「せえくまし農場」、平成8年度には50区画からなる「めえばる農園」を開園した。平成18年度には西原町役場が開園した19区画からなる「西原町キッズ農園」の管理運営受託や栽培に関する講習会の開催など、市民農園の開設・運営に精力的に取り組んでいる。

特にキッズ農園では、敷地の半分を利用して、子ども達を対象としたカレーの食材を栽培するカレープロジェクトや、農園で採れた大豆を使用した豆腐づくり体験などを行っている。

これらの市民農園は、町民や町外住民などに貸与されることで利用者同士の交流が生まれ、また、調理体験の際は町内の女性グループ等が協力するなど、住民及び世代間交流に大きく寄与している。

